

北海道におけるヒンジモの分布

外山雅寛

はじめに

北海道のヒンジモとタヌキモ科植物は筆者が特に注意を払ってきた植物であった。調査した地方のうち石狩川流域についてはその最下流部（石狩町）から雨竜町に至るまで、総ての湿地・池をもらさず踏査している。そのうちからヒンジモが記録された場所はただ1所のみで、改めて本種が水生植物中の稀種であることを知らされた。

従来は道東部の釧路のみの分布が知られていたが、近時ようやく北海道での分布が明らかにされようとしている。

筆者が道東部から新確認した地は十勝管内で1か所、空知管内で1か所である。さらに最近、北海道の全植物を広域にわたって調査されている原松次氏（札幌市在住

の植物研究者）が札幌市より本種の確認をなされ、これまで空白のままとなっていた分布がほぼ明らかとなった。

勇払地方については精細に調査したが確認されていない。北海道の中央山地から西半部については今後本種が確認される可能性が少なく、東半部からはなお新分布が確認されるかもしれない。

以下、各産地について自生地の正確な位置等も明らかにし、再確認ができるようにしたい。

北海道におけるヒンジモの新産地

a) 十勝管内豊頃町での新産地

1988年8月10日、豊頃町内の池塘43か所のうち13池塘を調査した結果、ヒンジモが育素田沼に自生していることを確認した。周辺部は深いヨシに被われていて近づく

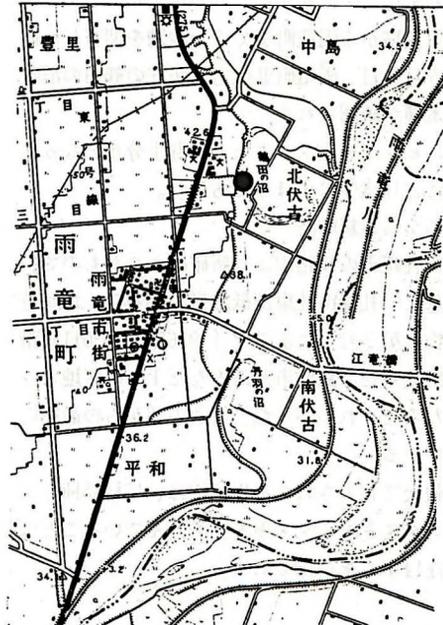
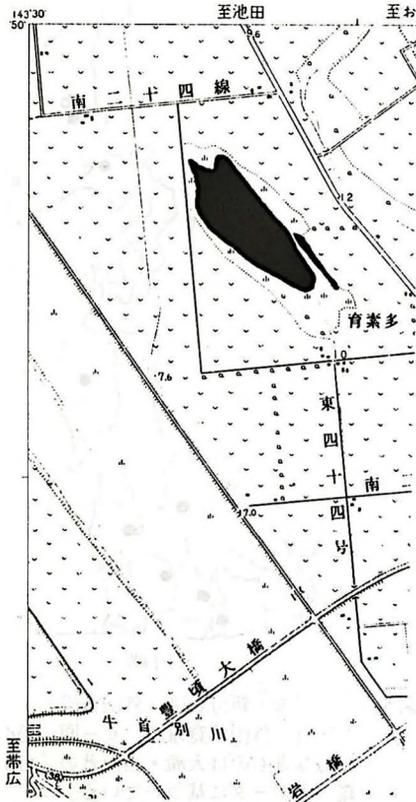


図1(左) 北海道十勝管内のヒンジモの分布地 育素田沼（黒色で示した）

図2(上) 北海道雨竜町のヒンジモの分布位置図



図3. 北海道十勝管内豊頃町育素田沼
外山雅寛採集品 (標本は1枚)

ことさえ容易でない沼であった。これが北海道第2の産地と思っていたが、後年の原松次氏の発表—札幌市分布—により、第3の新産地であることが判明した。標本を示し、再確認も何人によってもできるように地図上での分布位置も明らかにしておくことにした。

b) 空知管内雨竜町での新産地

石狩川最下流域から雨竜町までの全池塘を調査した結果、1989年5月21日、雨竜町北伏古に所在の鶴田の沼唯1か所から本種が確認された。

自生状況はヒンジモとタヌキモとの混生分布となっていて、水のにごりは少ないほうであった。

c) 札幌市内からの新確認

原松次氏が札幌市の篠路川より新確認されたもので、氏の発表された「札幌市北東部低地帯の植物」(北海道の自然と生物 第2号)によると「1986年7月30日篠路川で始めて出会った。釧路市が道内ただ1つの産地とみなされていたのでうれしかった」と道央部からの最初の報告をされている。

原氏が本報文で発表された水生植物は、15科35種で、中にはコタヌキモやタヌキモをも含んでいることは驚きであり注目すべき記録である。

まとめ

以上3か所からの最近の新確認地をまとめたものが、筆者の集約した「ヒンジモの新分布図」であるが、決して自然環境は良好なものではなく、十勝管内豊頃町所在の多くの池塘が今後排水と埋立てによって失われようと



図4. 北海道空知管内雨竜町鶴田の沼
外山雅寛採集品 (3枚のうち)



以下略

図5. ヒンジモの新分布図 (外山作成)
a・b—外山雅寛確認 c—原松次確認
記号なきものは大滝・石戸著の「日本水生植物図鑑」のデータに基づいている。

しているし、空知管内雨竜町北伏古の鶴田の沼も下の方は農業排水の流入等によりヒンジモやタヌキモも分布せず、それより上の方にかろうじてタヌキモとヒンジモの混生が見られるのが現状である。

それにしても、これまでの踏査によって北海道のほぼ完全に近いヒンジモの分布図を示せたことはささやかな成果である。本道では極稀な水生植物であるため1つの産地を確認するためには容易なことではないが、それが消滅せぬうちに、北海道に分布したという明かしだけで

も、標本をそえて残していきたいと思う。

文 献

- 原 松次、1990. 札幌市北東部低地帯の植物. 北海道の自然と生物 No.2 : 22-28.
大滝末男・石戸 忠、1980. 日本水生植物図鑑. P 283 (ウキクサ科の分布)、北隆館.
外山雅寛、1988. 北海道十勝産タヌキモ雑記. 食虫植物研究会会誌 39 : 112-116.

山口県周防部南部の

若干の池沼、河川の水草(その1)

南 敦

標記の場所を調査したので報告する。証拠標本は山口県立山口博物館に納入した。

水草について常々多くの御教示を頂戴している角野康郎先生に深甚の謝意を表す。

1. 柳井市

(1) 柳井市水源池：柳井市黒杭 1990. 10. 23 池の全面にアサザが大群生し、開花中である。他にガマのみがわずかに生育している。

(2) 苗代地の池：柳井市古開作苗代地、1990. 9. 22 ヒシが全面に大群生、マツモも非常に多い。ガマも少々ある。ブルーギル、エビsp、食用ガエルなど。いずれも多数いる。

(3) 河添の池：柳井市余田河添 1990. 9. 24 全面にヒシが大群生。他の植物は全くない。

2. 平生町

(4) 八海橋の沼：平生町八海 1990. 9. 23 全面にヒシが群生しているが、ヒシの間にイヌタヌキモがかなりある。沼の岸にヨシが群生している。

(5) 曾根八幡宮上方の池：平生町曾根 1990. 9. 24 全面にヒシが群生、コウキクサも少々ある。

(6) 森の下の沼：平生町佐賀、森の下 1990. 9. 24 全面にヒシが群生、マツモも多数生育している。

3. 田布施町

(7) 田布施川(砂田)：田布施町砂田 1990. 9. 27 ホザキノフサモが多数、マコモも多数ある。

(8) 真沙湖：田布施町水上 1990. 9. 27 全面にヒシが群生、イヌタヌキモもやゝ多数ある。岸辺にガマやマコモが少々ある。

(9) 岡迫の池：田布施町岸田 1990. 9. 22 ホザキノフサモが非常に多数浮いていた。

(10) 田布施川(関戸橋)：田布施町庄山 1990. 9. 22 ヒシが大群生。ホザキノフサモがかなり多い。岸辺にマコモがかなりある。

(11) 堀川：田布施町土井の内、堀川(田布施川支流) 1990. 9. 24 ホザキノフサモがやゝ多数ある。マコモも多数ある。他にエビモが少々。

4. 上関町

(12) 蒲井八幡宮の池：上関町蒲井 1990. 9. 24 ヒシが水面の半分に群生。ホザキノフサモがやゝ多数あって開花中であった。以前イヌタヌキモが多数あったが全くなくなっている。

5. 光市

(13) 三井小学校北西の池：光市三井殿河内、龍珠院に行く途中、道の西側 1990. 10. 6 全面にイヌタヌキモが大群生。特に南側のガマの間には異常といえるほど多い。マツモ多い。

(14) 島田川：光市島田 1990. 10. 6 オオカナダモ多数。クロモ(型不明)やゝ多数生育。

6. 徳地町

(15) 佐波川：徳地町堀 1990. 10. 10 オオカナダモ多数、クロモ腋性殖芽型やゝ多数。

(16) 島地川：徳地町島地 1990. 11. 18 オオカナダモ大群生、クロモ腋性殖芽型が大群生している。

(1991. 1. 8 記)